

資料編

1 調査資料

(1) 農家・市民意向調査

①農家意向調査結果（令和5年7月7日実施）

調査対象：農家71戸 回収数：48票

有効回収率：67.6%

※百分率（%）の計算は、「n（総回答数）を分母とし、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、単数回答については、%を足し合わせても100.0%にならない場合があります、その場合でも100.0%としています。

Q1.回答者の続柄	件数	割合	順位
世帯主	44	91.7%	1位
後継者	2	4.2%	2位
世帯主の配偶者	2	4.2%	2位
その他	0	0.0%	4位
Q2.本人以外の従事者【複数回答】	件数	割合	順位
本人のみ	5	8.3%	3位
子ども	15	25.0%	2位
配偶者	30	50.0%	1位
親	3	5.0%	5位
二親等以内の親族	5	8.3%	3位
その他	2	3.3%	6位
Q3.年間従事日数	件数	割合	順位
年間60日未満	34	30.1%	2位
60日～149日	29	25.7%	3位
年間150日以上	50	44.2%	1位
Q4.後継者について	件数	割合	順位
1. 本人が後継者(祖父母が健在)	2	4.2%	5位
2. 現在就農している後継者がいる	8	16.7%	3位
3. 後継者となるものがある	9	18.8%	2位
4. 今はわからない	21	43.8%	1位
5. 農業の後継者はいない	8	16.7%	3位
Q5.農業継続意向	件数	割合	順位
1. 将来も継続させたい	18	37.5%	2位
2. 当面(10年程度)は継続したい	24	50.0%	1位
3. 近いうちに離農するつもり	2	4.2%	4位
4. わからない	3	6.3%	3位
5. その他	1	2.1%	5位
Q6.認定農業者制度について	件数	割合	順位
1. 認定を受けている	9	18.8%	3位
2. 知っており認定を受けたい	2	4.2%	5位
3. 知っているが認定を受けるつもりはない	18	37.5%	1位
4. 聞いたことはあるが内容はわからない	8	16.7%	4位
5. 知らない	10	20.8%	2位
6. その他	1	2.1%	6位

Q7.援農ボランティアについて	件数	割合	順位
1. 講習生の受入をしている又は活用している	7	14.6%	3位
2. 知っており活用したい	1	2.1%	4位
3. 知っているが活用しない	28	58.3%	1位
4. 知らない	12	25.0%	2位
Q8.農業収入について	件数	割合	順位
1. 農業収入が主の専門的農家	0	0.0%	4位
2. 農業収入とその他収入が同程度	1	2.1%	3位
3. 農業収入がその他収入より少ない	31	64.6%	1位
4. 自給的農家で農業収入は無い	16	33.3%	2位
Q9.販売方法・販売先【複数回答】	件数	割合	順位
1. 庭先販売	21	21.9%	1位
2. グリーンショップ多摩	13	13.5%	3位
3. いきいき市	9	9.4%	5位
4. アンテナショップPonte	12	12.5%	4位
5. みなみの恵み	9	9.4%	5位
6. スーパーや小売店	2	2.1%	9位
7. レストランや弁当屋	0	0.0%	10位
8. 学校給食	9	9.4%	5位
9. 販売していない(自家消費)	15	15.6%	2位
10. その他	6	6.3%	8位
Q10.庭先販売について	件数	割合	順位
1. 庭先販売をしている	20	41.7%	2位
2. 庭先販売をしていない	22	45.8%	1位
3. 今後やってみたい	2	4.2%	4位
4. 以前やっていたがやめた	4	8.3%	3位
5. その他	0	0.0%	5位
Q11.今後の農業経営について	件数	割合	順位
1. 経営を拡大したい	5	10.4%	2位
2. 現状を維持したい	33	68.8%	1位
3. 経営を縮小したい	5	10.4%	2位
4. 離農予定	5	10.4%	2位
Q12.今後の農業経営について考えていること【複数回答】	件数	割合	順位
1. 農産物の付加価値を高める農業経営(ブランド化など)	10	12.3%	3位
2. 施設栽培に取り組みたい	4	4.9%	6位
3. 化学肥料などを極力使用しない有機的農業	12	14.8%	2位
4. 農産加工などに取り組みたい	4	4.9%	6位
5. 花きや果樹に取り組みたい	8	9.9%	4位
6. インターネット販売に取り組みたい	1	1.2%	9位
7. 学校給食に供給したい	5	6.2%	5位
8. 市場出荷したい	1	1.2%	9位
9. 現状維持したい	32	39.5%	1位
10. その他	4	4.9%	6位

Q13.農業所得の目標額	件数	割合	順位
1. 販売せず(自家消費のみ)	15	31.3%	1位
2. 50万円未満	10	20.8%	2位
3. 50~100万円未満	5	10.4%	4位
4. 100~200万円未満	8	16.7%	3位
5. 200~300万円未満	2	4.2%	6位
6. 300~500万円未満	5	10.4%	4位
7. 500~1,000万円未満	2	4.2%	6位
8. 1,000万円以上	1	2.1%	8位
Q14.農業経営の不安について【複数回答】	件数	割合	順位
1. 農作物の販売価格の低迷	10	8.4%	7位
2. 担い手不足	11	9.2%	6位
3. 農業資材の高騰	13	10.9%	5位
4. 販路の確保	5	4.2%	8位
5. 自身の健康問題	27	22.7%	1位
6. 後継者問題	18	15.1%	2位
7. 相続税等の税負担	18	15.1%	2位
8. 都市化による近隣住民への理解	16	13.4%	4位
9. 不安は無い	1	0.8%	9位
Q15.市民との交流について【複数回答】	件数	割合	順位
1. 農業体験や学校農園など教育機関との連携	13	15.7%	2位
2. 農業ウォッチングラリーへの協力	8	9.6%	4位
3. 家族体験農業(児童館)の協力	10	12.0%	3位
4. 保育所・幼稚園児の芋ほり体験	8	9.6%	4位
5. 地域・商店街等のイベント参加	7	8.4%	7位
6. 援農ボランティア講習生の受け入れ	8	9.6%	4位
7. 農業技術の指導	5	6.0%	8位
8. その他	24	28.9%	1位
Q16.農地貸借の意向確認【複数回答】	件数	割合	順位
1. 自分の所有する生産緑地を無償で貸したい(使用貸借:契約期間内でも途中で返還可能)	7	13.5%	3位
2. 自分の所有する生産緑地を有償で貸したい(賃貸借:途中で返還は困難)	2	3.8%	5位
3. 経営規模を拡大したいので生産緑地を無償で借りたい(使用貸借)	3	5.8%	4位
4. ある程度長期で借りて安定した農業経営をしたいので生産緑地を有償で借りたい(賃貸借)	2	3.8%	5位
5. 制度をよく知らないので詳細を教えてください	8	15.4%	2位
6. その他	30	57.7%	1位
Q17.市民農園の開設意向について	件数	割合	順位
1. 農家本人が苗や肥料を用意して利用者に技術指導をする「体験農園」	5	9.1%	4位
2. 行政や農協に生産緑地を貸して、行政や農協が開設する「行政(農協)開設型市民農園」	11	20.0%	2位
3. 民間事業者が生産緑地を貸して、民間事業者が開設する「民間開設型市民農園」	4	7.3%	5位
4. 農家自らが開設し運営する「農家開設型市民農園」	4	7.3%	5位
5. 制度を良く知らないので詳細を教えてください	8	14.5%	3位
6. 市民農園開設を考えていない	23	41.8%	1位

Q18.宅地化農地の今後の方向について【複数回答】	件数	割合	順位
1. 当面(5年程度)は農地として維持したい	20	41.7%	1位
2. 家庭菜園用地として提供したい(多摩市は特に予定はありません)	1	2.1%	6位
3. 近いうちに農地転用して宅地化予定(所有権変更無し)	3	6.3%	3位
4. 近いうちに宅地として売却予定	2	4.2%	5位
5. 生産緑地として追加して欲しい	1	2.1%	6位
6. 宅地化農地は所有していない	18	37.5%	2位
7. その他	3	6.3%	3位
Q19.今後行政に力を入れてもらいたい農業政策【複数回答】	件数	割合	順位
1. 農業委員による肥培管理	5	4.3%	11位
2. 生産緑地(特定含む)の保全	16	13.9%	2位
3. 農業関連法や制度の周知・啓発	10	8.7%	3位
4. 環境保全型農業の推進	10	8.7%	3位
5. 施設栽培農業への支援制度の充実	6	5.2%	7位
6. 認定農業者制度の周知	2	1.7%	14位
7. 果実類栽培への転換支援	6	5.2%	7位
8. 学校給食への出荷に対する補助	2	1.7%	14位
9. 多摩市産農産物のブランド化	8	7.0%	5位
10. 販路の拡大に対する支援	6	5.2%	7位
11. 農業経営・技術研修会の開催	8	7.0%	5位
12. 援農ボランティア制度の拡充	6	5.2%	7位
13. マルシェや農業イベントの実施	3	2.6%	13位
14. 農福連携に対する支援	2	1.7%	14位
15. 飲食店とのマッチング支援	5	4.3%	11位
16. その他	20	17.4%	1位

②市民意向調査結果（令和5年7月7日実施）

調査対象：市民500人 有効回収数115票

有効回収率：23.0%

※百分率（%）の計算は、「n（総回答数）を分母とし、小数点第2位を四捨五入して表示しているため、単数回答については、%を足し合わせても100.0%にならない場合があります、その場合でも100.0%としています。

Q1.多摩市農業の認知度	件数	割合	順位
1. よく知っている	20	17.4%	3位
2. まあまあ知っている	51	44.3%	1位
3. あまり知らない	33	28.7%	2位
4. 知らない	11	9.6%	4位
Q2.近所に農地があるか	件数	割合	順位
1. 近くにある	21	18.3%	3位
2. 少し離れているがある	38	33.0%	2位
3. 近くにはない	41	35.7%	1位
4. 知らない	15	13.0%	4位
Q3.多摩市の特産品や取り組み【複数回答】	件数	割合	順位
1. 「ふるさと多摩夏まつり(朝顔市)」で販売される「朝顔」	62	33.0%	1位
2. 市内産の米を使用した地酒「原峰のいずみ」	26	13.8%	3位
3. 市内産の米と麦を使用した味噌「原峰のかおり」	16	8.5%	5位
4. 市内産の桜の塩漬けをあしらったお菓子「桜ぼるぼろん」	11	5.9%	6位
5. 市内産の原材料を使用した焼きかりんとう「多摩の散歩道」	8	4.3%	7位
6. 多摩市の農産物応援サイト「agri agri」	2	1.1%	9位
7. 多摩市と長野県富士見町共同アンテナショップ「Ponte」	39	20.7%	2位
8. 市内農業者の任意団体により運営されている都内唯一の共同直売所「いきいき市」	21	11.2%	4位
9. 連光寺6丁目で行われている「農業公園づくり」の取り組み	3	1.6%	8位
Q4.市内農地に対する考え	件数	割合	順位
1. 税金を投入しても優先して農地として残すべき	23	20.0%	2位
2. 農業者の努力によって残して欲しい	21	18.3%	3位
3. 農地に限定せず緑地や市民農園用地として残して欲しい	56	48.7%	1位
4. 都市化されても仕方がない	5	4.3%	5位
5. わからない	9	7.8%	4位
回答なし	1	0.9%	6位
Q5.農地に期待すること【複数回答】	件数	割合	順位
1. 新鮮で安全な食料の供給	83	26.5%	1位
2. 災害時の避難場所など防災的な機能	31	9.9%	5位
3. 街並みなど緑の景観形成	45	14.4%	4位
4. 洪水や崩落を防ぐ治水機能	25	8.0%	6位
5. 農作業体験や農家との交流の場	54	17.3%	3位
6. 食育など子どもの教育の場	73	23.3%	2位
7. その他	2	0.6%	7位

Q6.日頃野菜を購入する場所【複数回答】	件数	割合	順位
1. 市内の八百屋や地元の商店	28	11.4%	3位
2. 市内のスーパーなどの量販店	108	44.1%	1位
3. 市内のコンビニエンスストア	14	5.7%	5位
4. 市内農家の庭先販売	18	7.3%	4位
5. 他地域の農家からの産直	13	5.3%	6位
6. 生協や宅配ネット(共同購入など)	37	15.1%	2位
7. 勤務先近くの店舗など市外で購入	8	3.3%	8位
8. グリーンショップ多摩(農協)	4	1.6%	9位
9. いきいき市	1	0.4%	11位
10. アンテナショップ「Ponte」	10	4.1%	7位
11. その他	4	1.6%	9位
Q7.市内産農産物の購入場所【複数回答】	件数	割合	順位
1. 市内農家の庭先販売	33	20.2%	2位
2. グリーンショップ多摩(農協)	14	8.6%	4位
3. いきいき市	7	4.3%	7位
4. 市内の一部スーパー	52	31.9%	1位
5. アンテナショップ「Ponte」	14	8.6%	4位
6. マルシェなどのイベント	11	6.7%	6位
7. 多摩市産の農産物を購入したことが無い	28	17.2%	3位
8. その他	4	2.5%	8位
Q8.市内農産物の購入意向	件数	割合	順位
1. 積極的に購入したい	22	19.1%	3位
2. どちらかというと購入したい	55	47.8%	1位
3. 市内産にこだわりは無い	37	32.2%	2位
4. 購入したくない	0	0.0%	5位
未記入	1	0.9%	4位
Q9.農作物の安全性と購入	件数	割合	順位
1. 有機農法や無農薬栽培など安全・安心を第一優先	40	34.8%	1位
2. 安全・安心は優先するが有機農法や無農薬にはこだわらず、美味しさを優先する	36	31.3%	2位
3. 安全・安心は優先するが有機農法や無農薬にはこだわらず、なるべく安いものを購入する	26	22.6%	3位
4. とにかく値段を優先する。安全・安心は最低限度保証されていれば気にしない	12	10.4%	4位
5. その他	1	0.9%	5位
Q10.市内農産物への要望【複数回答】	件数	割合	順位
1. 販売している場所の情報を提供してほしい	83	31.4%	1位
2. 農産物の旬を教えてください	38	14.4%	3位
3. 安定的にバランスよく供給してほしい	24	9.1%	4位
4. 市内産農産物を購入できる場所を増やしてほしい	69	26.1%	2位
5. 味噌や漬物などの農家で作った加工品の出荷をしてほしい	18	6.8%	6位
6. 有機農産物や無農薬の農産物を生産して欲しい	22	8.3%	5位
7. 新しい農産物を作ってほしい	7	2.7%	7位
8. その他	3	1.1%	8位

Q11.参加したことがある農業イベント【複数回答】	件数	割合	順位
1. 農業体験や学校農園など学校教育	12	10.6%	4位
2. 農業ウォッチングラリー	1	0.9%	9位
3. 保育園・幼稚園児の芋ほり体験	34	30.1%	1位
4. 家族体験農業(児童館)	3	2.7%	7位
5. 朝顔市(ふるさと多摩夏まつり)	29	25.7%	2位
6. 体験型市民農園(園主の指導を受けるタイプの市民農園)	1	0.9%	9位
7. 援農ボランティア講習会	0	0.0%	11位
8. 家庭菜園(市民農園)	13	11.5%	3位
9. 農家との交流イベント	3	2.7%	7位
10. 食育事業・食育イベント	6	5.3%	6位
11. その他	11	9.7%	5位
Q12.今後参加したい農業イベント等【複数回答】	件数	割合	順位
1. 市民農園や家庭菜園で農作物を作ってみたい	35	21.1%	1位
2. 芋ほり等の掘り取り、もぎ取りをやってみたい	30	18.1%	2位
3. 野菜の作り方等栽培の講座に参加してみたい	29	17.5%	3位
4. 市などが主催する農業体験事業に参加してみたい	18	10.8%	4位
5. 援農ボランティア(農家のお手伝い)に参加してみたい	11	6.6%	7位
6. 農業を実際に始めたいので体験塾のようなものを実施してほしい	6	3.6%	9位
7. 農業ウォッチングラリーに参加してみたい	11	6.6%	7位
8. 農家と交流してみたい	13	7.8%	5位
9. その他	13	7.8%	5位
Q13.回答者の年齢	件数	割合	順位
1. 30歳未満	3	2.6%	5位
2. 30歳以上～45歳未満	29	25.2%	2位
3. 45歳以上～60歳未満	25	21.7%	3位
4. 60歳以上～65歳未満	6	5.2%	4位
5. 65歳以上	51	44.3%	1位
未記入	1	0.9%	6位
Q14.回答者のお住まいの地区	件数	割合	順位
1. 関戸	12	10.4%	5位
2. 連光寺	3	2.6%	10位
3. 乞田	3	2.6%	10位
4. 和田・百草	14	12.2%	2位
5. 落川	0	0.0%	15位
6. 東寺方	2	1.7%	14位
7. 一ノ宮	4	3.5%	9位
8. 桜ヶ丘	3	2.6%	10位
9. 聖ヶ丘	3	2.6%	10位
10. 馬引沢・諏訪	13	11.3%	3位
11. 永山	12	10.4%	5位
12. 貝取・豊ヶ丘	13	11.3%	3位
13. 落合・鶴牧	23	20.0%	1位
14. 南野	0	0.0%	15位
15. 愛宕	5	4.3%	7位
16. 山王下・中沢・唐木田	5	4.3%	7位

Q15.多摩市の農業への関心	件数	割合	順位
1. 関心がある	67	58.3%	1位
2. 関心が無い	19	16.5%	3位
3. わからない	29	25.2%	2位
Q16.回答者の農業経験	件数	割合	順位
1. 以前、経験したことがある	24	20.9%	2位
2. 今も経験している	8	7.0%	3位
3. 経験がない	83	72.2%	1位

(2) 農家ヒアリング概要

ー：特に意見等なし

設問 農家（地区・面積）	①営農していく上での課題、JAや行政に望むこと	②農業を続けていく上でのモチベーション、原動力	③特定生産緑地について（認知度、指定意向等）
A 地区：諏訪・馬引沢 所有農地面積計：16,501.6㎡ うち生産緑地：10,409.6㎡	雑木や剪定ゴミ等の廃棄ゴミの処分に困っている（燃やせない）。	無人販売を行っており、お客さんがわざわざ来てくれ、おいしいなど声が直接聞けるのが嬉しい。	聞いたことはある（農協の回覧などで）。面積が多いため移行する予定。
B 地区：永山 所有農地面積計：2,288.0㎡ うち生産緑地：538.0㎡	出来るだけやっているが、年齢のこともあり、ゆくゆくは手放す予定（宅地等へ）。	知人、友人などに配り、喜んでくれる。 食べきれない時にたまに販売（100円で）している。	農地が少なく、あまり考えていない。だんだん減らしていくのではないかと。息子がどうするかもある。
C 地区：乞田・愛宕 所有農地面積計：1,329.9㎡ うち生産緑地：1,329.9㎡	草や植木等のゴミ問題。周辺が住宅のため燃やせない。安く処理出来る方法があると良い。	ブルーベリーが甘くておいしいと言われる（甘みを出すため肥料に米ぬかを使用）。 多少のこづかいにもなる。	聞いたことはあるがわからない。
D 地区：乞田・愛宕 所有農地面積計：7,739.7㎡ うち生産緑地：5,112.7㎡	息子が継いでくれるか等、将来の不安がある。先祖代々から続いており自分の代で終わらせたくない。 ゴミ問題、出来れば燃やしたい。	都市、消費地が近い。団地に売りに行き、お客さんとのコミュニケーションが出来、やりがいがある。スーパーとは違い、旬の物の販売なので、お客さんの理解も必要。	移行する予定。
E 地区：和田・百草 所有農地面積計：1,682.0㎡ うち生産緑地：1,682.0㎡	納税猶予（終身）の関係によりどこまでできるか。高齢、病床についてからは不安。 重機、農業機器を貸してもらえないか（リース会社の仲介など、人をつけてもらえると）。 技術指導してもらいたい（継いでから農業を始めたので自己流）。	軒先販売で、おいしいと言ってもらえるのが良い。 追熟したものは（日もちせずスーパーでは買えない）美味しい。	知っている。納税猶予制度の関係を混同しているので説明会をお願いしたい。
F 地区：一ノ宮 所有農地面積計：1,702.0㎡ うち生産緑地：1,076.0㎡	農業で食べていくのは難しい。規模がないので、付加価値を出す。カフェを併設し、参加型、体験型が出来ればと思う。	農地を残すことへの生きがいというよりは、今をどうするか、元気なうちに、交流型のカフェ的なものをやり、直接声を聞く事で生きがいややりがいが出るのかと思う。	知っており、移行予定。
G 地区：一ノ宮 所有農地面積計：14,173.0㎡ うち生産緑地：13,881.0㎡	ゴミ問題。近隣住民の理解が必要（ゴミを燃やす、消毒、騒音など）。今までのようにはいなくなった。	理解ある人がいたり、近所に消費者がいて、喜んでくれる。	知っており、移行予定。説明会を聞いて、納得して行きたい。
H 地区：和田・百草 所有農地面積計：1,784.8㎡ うち生産緑地：1,366.0㎡	自分達が食べる分だけなら良いが、技術が伴わない（A級品が作れない）。	農地がだんだん減ってきているが、自分の代になくなるのはどうかと思い、次に残していければと思っている。	知っている（農協で聞いた）。自身の農地は年数的にまだ対策時期ではないと思うが、説明会には行く予定。
I 地区：連光寺 所有農地面積計：3,706.0㎡ うち生産緑地：1,680.0㎡	ポンテやJAなど、販売先はあるが、荷がなく、生産が増えればと思う。 今のところないが、ゴミを燃やすと苦情が出てくるかもしれない。	自分の代はやるだけのことはやる。 消費者から花のもちが良いなどの声が入ってきて、自分のものを評価してくれることは原動力としてももちろんある。	今のところ、自分がやっているうちは、移行予定。
J 地区：連光寺 所有農地面積計：3,510.0㎡ うち生産緑地：3,510.0㎡	今のところ特になし。 ドラム缶でゴミを燃やしている。風向きによって、煙が近くのテニスコートのほうへ（以前に苦情があった）。	体験農業を行っており、子ども達が喜んでくれることが良い。	知っており、今のところ（病気をしない限り）移行予定。
K 地区：関戸 所有農地面積計：6,642.0㎡ うち生産緑地：5,674.0㎡	今のところ問題はない。後継者になる予定の息子も、農業をやると言っている	農業が楽しい。作ったものが売れて、それをおいしいと言われる喜びがある。 自由がきく。	知っている。現在生産緑地の農地は全て特定に指定する。

設問 農家	④生産緑地の賃借について (意向等)	⑤認定農業者制度について (認知度、意向等)	⑥援農ボランティアについて (認知度、意向等)	⑦災害時の避難場所等としての農地活用について (意向等)
A	今のところ考えていないが、考える余地はある。	初めて聞いたため、わからない。	初めて聞いたため、わからない。	受け入れても良い。
B	貸してもよいと思っている (駐車できないが)。どうせ貸すなら収入があったほうが良い。	わからないし、やらない方向である (息子がやりきれるかどうかなどある)。	聞いたことはある。草むしりや剪定作業時の手伝いをしてもらうなど考えられる。	受け入れても良い。
C	息子が継いでくれれば良いが (現在は剪定などたまに手伝ってくれる)、わからない。貸すとしたら農地を残していくことを考えると行政に。	聞いたことはある。年齢的、面積的 (少ない) にも難しいと思う。	そこまで面積を持っていないので難しいのではないかと。ボランティアが入るとしても、自分もある程度動けなければいけない。	使ってもらえればと思う。
D	貸すことは考えておらず、自分でやっていく。面積的にも今くらいがちょうど良い。	難しいと思う。	労働力になってくれれば良いが、教えるという立場になる等時間がとられ、農業に専念できない。今までのやり方では難しいのでは (以前受け入れ経験あり)。	災害時はどうこう言ってもらえない。止む無しということ。
E	今のところ考えていない。出来れば人に頼らず、やり方を工夫するなど考える。	まだ人に教えてもらっているのでは、今すぐにはという段階である。	-	緊急避難なら仕方がないが、細かい部分 (生産緑地なので生産しなければならない等) のこともあると思う、今のところ何とも言えない。前向きに検討する。
F	自身の農地範囲を狭めて、法人へ少し貸したい。農福連携など、障がい者、子ども達の芋掘り (植えるも含め1年間を通して) など、自然に親しむ機会があると良い。	知っているが、農業収入がなく、ハードルが高いと思う。無農薬や有機栽培、ハウス栽培などを行わなければ難しいのではないかと。	多摩市で行っていることは知らなかった。互いに共通の精神でなければということもあり、会ってみたいとわからない。	出来ることはぜひ協力したい。(阪神淡路の大変さを見たので)
G	自身で耕作していく。先祖がやっていたことを他人に貸すことは考えていない。どうしても出来なくなった農地は行政に貸し、市民農園にしてほしい。	認定農業者である。	活用している。	使ってもらって良い (生産物についても)。
H	今のところ、自分が動ける時は自分でやる。貸すとしたら農協を考えている。自分で内容を詳しく分かっていたら個人でも良いと思うが。	制度は知っているが内容をあまり知らない。300万円の目標額はとても難しい。	知っている。畑はあるが、休むところやトイレがないので、出来ないかなと思っている。	使っても良い。
I	貸すことはないが、面積がないので条件等もあるが借りたいと思っている。	どちらとも言えない。目標額300万円等いろいろしぼりがあるのではないかと。	ボランティアを利用するまでには至らない。	災害時には仕方がない。
J	特に予定はない。	自家消費や近所へ配るなどしており、販売しておらず、売上もなく難しい。	ネックは雑草で、頼むとしたら草むしり。	協力したい。
K	貸していいところはない。自分の手で足りている。貸すのであれば、貸す部分は生産緑地を解除する。	今は農業経営は慎重にいきたいので、現段階での認定は遠慮する。息子が農業をするかとハッキリしたら、ハウス栽培や機械化も視野に入れて本格的に農業に従事する。その一環として、認定農業者の認定も検討する。	知っているが受け入れはしない。ボランティアと話すことが面倒である。また、予定を組むのが難しいし、自分自身が気ままに農業をできなくなる。	協定は必要不可欠と考えている。農地を避難場所として使っても構わない。また、大災害が発生したら、しばらくは被災地で農産物を販売することは難しいと考えている。

(3) 消費者意見箱

回収数：146 票（いさいき市、朝市、Ponte）

(複数回答)

設問	選択項目	件数	%
問1 あなたが多摩市の農産物を購入する理由を教えてください。	1 美味しさ	84	57.5
	2 安全・安心	95	65.1
	3 新鮮さ	120	82.2
	4 値段の安さ	68	46.6
	5 農家との交流	27	18.5
	6 顔の見える農産物	57	39.0
	7 品数や量の多さ	9	6.2
	8 その他	3	2.1
	無回答	0	0.0
問2 多摩市の農業に期待していることや、今後力を入れて欲しいことは何ですか。	1 新鮮で安全な食料の供給	134	91.8
	2 災害時の避難場所など防災的な機能	28	19.2
	3 街並みなど緑の景観の形成	28	19.2
	4 緑地としての環境の保全	49	33.6
	5 農作業の体験や農家との交流の場	29	19.9
	6 食育など子どもの教育	39	26.7
	7 その他	0	0.0
	無回答	0	0.0
問3 市民と農業とのふれあいについて、あなたは多摩市の農業や農家とどのように関わっていきたいですか。	1 市民農園や家庭菜園で農産物を作ってみたい	45	30.8
	2 芋ほり等掘り取り、もぎ取りをやってみたい	48	32.9
	3 野菜の作り方等栽培の講座に参加してみたい	42	28.8
	4 市などが主催する体験農業に参加してみたい	20	13.7
	5 援農ボランティア（農家のお手伝い）をやってみてみたい	27	18.5
	6 農業を実際に始めたいので体験塾のようなものを実施してほしい	6	4.1
	7 農業ウォッチングラリーに参加してみたい	15	10.3
	8 農家と交流してみたい	29	19.9
	9 その他参加したい事業	11	7.5
	無回答	20	13.7

(4) 障がい者団体アンケート

平成30年12月3日(月)に市内の障がい者施設20施設にアンケートを送付し、11団体から回答が得られた。回答内容は以下のとおりである。

①農業へのかかわりについて

働く場として：7 / 11 (63.63%)

訓練やリハビリの場として：3 / 11 (27.27%)

生き甲斐の場として：1 / 11 (0.90%)

農業には特に興味が無い：1 / 11 (0.90%)

②働く場として、どのように関わりたいか(問い1で働く場としてを選択した団体のみ回答)

福祉団体として農地を持ち農作物を生産したい：7 / 7 (100%)

農家に入って働きたい：2 / 7 (28.57%)

農作物を仕入れて加工品を作りたい：2 / 7 (28.57%)

③どのように農業に関わりたいか

土に触れるリラクゼーションが主の関わり：2 / 11 (18.18%)

農作業の手伝いをしたい：2 / 11 (18.18%)

芋掘りなどの収穫作業：4 / 11 (36.36%)

栽培技術を学びたい：1 / 11 (0.90%)

その他(多摩市産の農作物を原材料にした焼き菓子を作りたい)：1 / 11 (0.90%)

④農福連携で期待すること

働く場として障がい者を受け入れてくれる農家の紹介：3 / 11 (27.27%)

訓練や生き甲斐として障がい者を受け入れてくれる農家の紹介：3 / 11 (27.27%)

貸借できる農地の紹介：4 / 11 (36.36%)

農業技術指導：5 / 11 (45.45%)

加工品製造の受託：3 / 11 (27.27%)

農作業を中心とした特定子会社の紹介：1 / 11 (0.90%)

⑤農業・農作業に関わるうえで何か障害となっているもの

作業中の怪我：2 / 11 (18.18%)

受け入れてくれる農家を探すこと：1 / 11 (0.90%)

圃場への引率への不安：1 / 11 (0.90%)

人手不足(ジョブコーチなど)：2 / 11 (18.18%)

その他(夏場の熱中症対策など休める場所の確保)：1 / 11 (0.90%)

2 多摩市都市農業振興プランのパブリックコメント実施状況について

(1) プランの策定状況について

多摩市都市農業振興プラン改定にあたって、これまで農業者、農業団体関係者、学識経験者等によって構成する多摩市都市農業振興プラン改定検討委員会において、計画に関する審議を重ね、庁内の関係各課からの意見を反映し、令和6年1月に素案としてとりまとめた。その後、広く市民から意見を募集するためパブリックコメントを実施した。

(2) パブリックコメントの状況

実施期間 令和6年1月19日（金）～令和6年2月9日（金）
有効応募人数 1人
コメント件数 7件

(3) 寄せられたご意見について

111～113 頁参照

(4) 意見提出者の居住地

市内	市外
1件	0件

(5) 提出方法

方法	窓口持参	郵送	F A X	インターネット	投函箱
件数	0件	0件	0件	1件	0件

■多摩市都市農業振興プラン パブリックコメント個別回答一覧

No.	寄せられた意見	市の回答
1	多摩市内でどの農産物がどれだけ採れるのか、また生産能力がどこまであるのか、その実態は誰にも把握できていないように思われる。	直売所に出荷していない農家でも、庭先販売や注文生産、畝売りやご近所へ分けたりしているケースも多く、直売所や市場出荷以外にも農産物を販売・活用しているようです。しかし、今後多摩市では小規模農家への支援のため、無人直売所経営講座の実施や、特産品になりうる作目や小規模農家に適した農作物の周知・斡旋など様々な取り組みを実施していきます。【基本方針1（2）】
2	多摩市内でどの農産物がどれだけ採れるのか、また生産能力がどこまであるのか、その実態は誰にも把握できていないように思われる。	市内の農産物の生産状況については毎年「東京都農産物生産状況調査」が行われており、調査結果については各区市に報告が来ています。多摩市は少量多品目栽培の農家が多いため、生産された農作物全てを把握することは困難ですが、ある程度の把握はできております。
3	地産地消のための即売所が多摩市内には複数あるが、だからといって即売所に出荷するための労力が収益に見合っていないことと、人手不足が原因の一つとして考えられる。	ご指摘のとおり、出荷のための労力と収益が見合っていないことも理由の一つにはありますが、市内の多くの農家は農業収入の他にも収入などがある兼業農家である事も販売農家が少ない理由であると推察されます。農家意向調査の結果を見ると担い手不足についても不安要素の一つとして挙がっているため、多摩市では農業の担い手確保のために、平成27年度より援農ボランティア制度を、令和元年度より農業後継者育成セミナーを実施しております。【基本方針2（2）】

No.	寄せられた意見	市の回答
4	<p>日野市の「みなみの恵み」は日野・多摩・稲城三市の農産物のほか、日本全国の農産物を揃えており、レストランの野菜ビュッフェは馴染みのない野菜が並び、美味しく、昼時はいつも込み合っている。</p> <p>多摩市役所前の直売所はそれと比べるといつも閑散としている印象がある</p>	<p>多摩市役所前の直売所（グリーンショップ）は東京都中央卸売市場多摩ニュータウン市場から仕入れた全国の野菜の他、多摩市産の農産物（一部稲城市の農産物もあり）を取り扱っています。多摩市のほとんどの農家は露地栽培であるため、季節ごとに品揃えにばらつきがあり、端境期には品物も少なくなってしまう。旬の農産物を味わえる露地栽培の良さを認めつつも端境期対策のため施設栽培型農業の推進も進めています。一例として東京都のインキュベーション農園事業があります。【基本方針1（2）】</p>
5	<p>一方で、聖蹟桜ヶ丘駅近くで週三回開かれる「いきいき市」はきれいに洗われ包装された、美しく、みずみずしい野菜が非常に安く売られており、開店前に行列ができるほどである。ただ、品ぞろえはあまり豊富ではない。</p> <p>ここは有志の農家による運営によるものだが、売り場当番に人を出さないと出荷できないことになっている。</p> <p>そのため、一度は参加したものの、負担が大きく出荷を取り止めた農家も多数いると聞き及んでいる。</p> <p>参加する農家も増えておらず、現状は成功とは言い難い。</p>	<p>ご指摘のとおり「いきいき市」に出店していない農家の出店しない主な理由として、売り場当番の負担が大きい事が挙がっています。農業者が直接運営する店舗であり、農家の生の声が聞ける事が「いきいき市」の魅力のひとつですが、それが負担であるという現実もあります。「いきいき市」は全国でも珍しく、都内では唯一の農家による任意団体で運営される直売所です。多摩市では「いきいき市」を含めて「共同直売所の運営支援の充実」に取り組んでいます【基本方針1（3）】</p>
6	<p>そこで、ただ作ったもの、できたものを売るだけの「直売所」ではなく、生産者の収入増が見込める「売れるものを作る」意欲が培われるような枠組みが必要であり、また取り組むべきである。</p>	<p>多摩市では農業所得向上のため、「収益性の高い農産物への転換の支援」に取り組んでいます。一例として明治大学との共同研究事業であるアスパラガス「採りっきり栽培®」などがあります。平成29年度より実施しているこの事業は4経営体の農家で取り組みを始め、現在では16経営体までその数を増やしています。【基本方針1（2）】</p>

No.	寄せられた意見	市の回答
7	<p>例えば、もっと気軽に農家以外も誰でも出店できる、毎週末開かれる、フードトラックが集まる「ファーマーズ・マーケット」のような仕組みを作ってみてはどうか。（ex. 青山ファーマーズマーケット）マーケットに集客力があれば、多摩市の農家を回って集荷して代理販売するような民間業者の参入も見込まれるので、自家消費で終わらせていた農家が処分していた野菜も流通する機会を得られる。結局のところ、野菜、果物、花などの産直品はもちろん、ジャムなどの加工品、お茶、パン、ドーナツ、お菓子、コーヒー、ビール、ワイン、蜂蜜、アイスクリーム、雑貨、食器など、幅広い出店があることで、集客力を高めることができる。その場で飲食できたり、市民が憩いの場として過ごす場所となれば、援農ボランティアなど市民活動のPRの場として活用できるので、自然と農家と農業に興味を持つ市民の輪を広げるような枠組みになっていくだろう。</p>	<p>以前にコロナ対策の一環として、多摩市の観光部門と連携して多摩市役所横の芝生広場にて市内のお弁当販売事業者のお弁当販売と一緒に市内産農産物の販売を行うマルシェを実施しました。コロナ禍で密を避ける必要があったため、周知を絞って実施した事業ではありましたが、かなり好評でした。都市農業の維持・保全には市民の皆さんの理解が必要です、今後も都市農業の市民理解の醸成と多摩市産農産物の販路拡大のため、共同集荷システムや新たな地域での販路拡大の検討など実施していきます。【基本方針1（3）】</p>

3 計画改定体制資料

(1) 多摩市都市農業振興プラン改定検討委員会委員名簿

氏名	区分	所属
小形 敏光	東京南農業協同組合推薦	東京南農業協同組合
鎌田 純徳	東京都農業振興事務所推薦	東京都農業振興事務所
山岸 明	南多摩農業改良普及センター推薦	南多摩農業改良普及センター
田中 誠	東京都農業会議推薦	東京都農業会議
青木 幸子	多摩市農業委員会推薦	多摩市農業委員会
太田 盛久	市内農業者代表（農協推薦）	市内農業者
後藤 光蔵	学識経験者	武蔵大学名誉教授
伊藤 忠男	多摩市農業団体連絡協議会推薦	多摩市農業団体連絡協議会
磯貝 浩二	多摩市役所	多摩市役所市民経済部

(2) 多摩市都市農業振興プラン改定検討委員会

	年月日	会議内容
第1回	令和5年7月24日(月)	<ul style="list-style-type: none">・委員長・副委員長選出・会議運営方針の決定・プラン改定スケジュールの確認・プラン施策の取組状況確認
第2回	令和5年9月11日(月)	<ul style="list-style-type: none">・第1回要点録確認・委員会指摘事項の確認・素案修正点の確認
第3回	令和5年11月10日(金)	<ul style="list-style-type: none">・第2回要点録確認・多摩市都市農業振興市民フォーラムの結果報告・素案修正点の確認
第4回	令和6年2月22日(木)	<ul style="list-style-type: none">・第3回要点録確認・パブリックコメント実施結果報告・素案修正点の確認・多摩市都市農業振興プラン改定版原案の決定

(3) 多摩市都市農業振興プラン改定検討委員会設置要綱

多摩市告示第 157 号

多摩市都市農業振興プラン改定検討委員会設置要綱を次のとおり定める

令和 5 年 3 月 31 日

多摩市長 阿部裕行

多摩市都市農業振興プラン改定検討委員会設置要綱

(設置)

第 1 条 多摩市都市農業振興プラン（以下「プラン」という。）の計画期間の中間における見直し（以下「中間見直し」という。）を行い、改定するため、多摩市都市農業振興プラン改定検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項を所掌する。

- (1) プランの中間見直しに係る改定案の検討に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、プランの中間見直しに関し多摩市長（以下「市長」という。）が必要と認める事項

(構成)

第 3 条 委員会は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱し、又は任命するもの（以下「委員」という。）をもって構成する。

- (1) 東京南農業協同組合の職員 一人以内
- (2) 東京都農業振興事務所の職員 一人以内
- (3) 南多摩農業改良普及センターの職員 一人以内
- (4) 一般社団法人東京都農業会議の職員 一人以内
- (5) 多摩市農業委員会委員 二人以内
- (6) 東京南農業協同組合が推薦する多摩市内の農業者 二人以内
- (7) 学識経験者 一人以内
- (8) 多摩市農業団体連絡協議会が推薦する者 一人以内
- (9) 市民経済部長

(任期)

第 4 条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から令和 6 年 3 月 31 日までとする。

(委員長及び副委員長)

第 5 条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長及び副委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 委員長は、委員会を総括する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第 6 条 委員会の会議は、委員長が必要に応じて招集する。

- 2 委員会の会議は、委員長が主宰する。
- 3 委員会は、委員の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。
- 4 委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。
- 5 委員会の会議は、原則として公開する。
- 6 委員長は、会議に際し、原則として会議録を作成する。

(関係者の出席)

第7条 委員長は、会議に際し、必要に応じて関係者の出席を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、市民経済部経済観光課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

- 1 この要綱は、公示の日から施行する。
- 2 この要綱は、令和6年3月31日限り、その効力を失う。